

# 2008 年度 メッセージ DB タスクフォース 活動報告書

Ver. 1.0.1

平成 21 年 3 月 25 日

日本 OSS 推進フォーラム  
プラットフォーム部会 メッセージ DB タスクフォース

<http://www.ipa.go.jp/software/open/forum/>

---

メッセージ DB タスクフォース著作権情報

この文書は、日本 OSS 推進フォーラムプラットフォーム部会メッセージ DB タスクフォースの承諾無しに使用あるいは複写することはできません。

## 目次

<b>1</b>	<b>はじめに</b> .....	<b>3</b>
1.1	本資料の目的 .....	3
1.2	本資料で扱う範囲 .....	3
<b>2</b>	<b>活動指針</b> .....	<b>3</b>
<b>3</b>	<b>活動内容</b> .....	<b>4</b>
3.1	活動期間と活動記録 .....	4
3.2	MPEDIA の利用状況および有効性調査 .....	4
3.2.1	アクセス数 .....	4
3.2.2	メッセージ解説記事登録数 .....	5
3.2.3	検索メッセージのヒット率 .....	5
3.2.3.1	ヒット率の評価 .....	6
3.2.3.2	ヒットしたメッセージの特徴分析 .....	7
3.2.3.3	検索結果でメッセージなしと判定されたメッセージの原因分析 .....	8
3.3	バザールモデル型を実現するための MPEDIA の機能改善 .....	9
3.4	持続的な発展に向けた運用/維持管理方法の検討 .....	11
3.5	MPEDIA が目指す将来像と開発ロードマップの検討 .....	11
<b>4</b>	<b>課題</b> .....	<b>13</b>
<b>5</b>	<b>2009 年度に向けて</b> .....	<b>13</b>
<b>6</b>	<b>まとめ</b> .....	<b>13</b>
	<b>メッセージ DB タスクフォース メンバー一覧</b> .....	<b>15</b>
	<b>改訂履歴</b> .....	<b>16</b>
	<b>商標について</b> .....	<b>16</b>

# 1 はじめに

## 1.1 本資料の目的

2006年度のIPA公募により、「OSSメッセージペディア」(以下、mPedia。2007年4月25日リリース)が開発・一般公開された。2007年度には、日本OSS推進フォーラム・サーバ部会(現プラットフォーム部会)の中にメッセージDBタスクフォース(以下、メッセージDBTF)が発足し、2008年度もmPediaを広く一般に普及させるための活動を継続してきた。

本報告書は、メッセージDBTFの2008年度の活動内容を報告するものである。

## 1.2 本資料で扱う範囲

本資料は、2008年4月16日(2008年度タスクフォース発足日)から2009年3月24日までの活動内容を記載する。

# 2 活動指針

2008年度プラットフォーム部会の課題の一つに、『各プロジェクト成果の維持発展のためのコミュニティ形成と自立』があげられている。2006年度にIPA公募により開発されたmPediaは、まさにこの課題の対象プロジェクトであり、『OSSメッセージペディアの本格普及と永続性の確保』が2008年度メッセージDBTFの中核をなす活動テーマとなった。

コミュニティの形成は、mPediaの普及と永続性を実現するための有効な手段であり、2008年度は、『コミュニティ形成に向けた検討および課題整理』を活動指針として掲げ、具体的には、大きく下記の3点を中心に活動することとした。

- (1) OSSメッセージペディアの利用状況および有効性調査
- (2) OSSメッセージペディアの改良/追加開発の検討
- (3) OSSメッセージペディアの運用/維持/移管に関する検討

昨年(2007年度)は、mPediaの検索機能が強化され、新たに470件のカーネルメッセージデータが登録されたことなどにより、ユーザから見たmPediaの使い勝手および有効性は大きく改善されたが、今後、mPediaが永続的に発展していくための施策については、十分な議論が行われなかった。これを受け、2008年度のメッセージDBTF活動は、コミュニティ機能を実現するための具体的な施策の検討、およびそこから洗い出される課題の整理を行い、可能であれば、施策の実施までを目指すこととした。

## 3 活動内容

### 3.1 活動期間と活動記録

活動期間：2008 年 4 月 16 日 ~ 2009 年 3 月 24 日

活動記録：定例会議(毎月)および mPedia 勉強会(必要の都度)の開催状況は次の通りである。

開催回	開催日	開催内容
第 1 回定例会	20080416	年間スケジュールの検討
第 2 回定例会	20080514	mPedia 機能改善の検討/優先度付け
Linux World Expo/Tokyo 2008	20080528	『日本発 Linux カーネルのメッセージ辞典「OSS メッセージペディア」』の 세미나 講演
第 3 回定例会	20080618	IPA サーバ移管/コミュニティ形成に向けた検討
第 4 回定例会	20080723	開発内容の具体的な検討
mPedia 勉強会 1	20080821	mPedia データ構造勉強会
第 5 回定例会	20080910	mPedia の今後の方向性検討/mPedia の利用状況調査
第 6 回定例会	20081008	mPedia の将来像の検討
第 7 回定例会	20081119	カーネルパッチ連携を前提とした mPedia 将来像の検討
第 8 回定例会	20081215	メッセージ DBTF の今後の進め方
第 9 回定例会	20090121	メッセージ DBTF 関連開発項目の再検討
第 10 回定例会	20090219	mPedia の将来ビジョンと開発ロードマップの検討
mPedia 勉強会 2	20090309	mPedia 仕様概要勉強会
第 11 回定例会	20090319	kmsg パッチ関連開発項目の選定と活動報告書レビュー

### 3.2 mPedia の利用状況および有効性調査

#### 3.2.1 アクセス数

アクセス数調査は、2007 年 4 月から実施しているが、今回は、2008 年 2 月以降の mPedia の月別アクセス数を表 1 にまとめた。mPedia 公開後の総ページビュー件数は 300 万件を超え、月別の平均ページビュー(2008 年 2 月~2009 年 1 月まで)は、147,051 件/月である。2007 年度の平均ページビュー 80,820 件/月と比較した場合、mPedia へのアクセス数は 1.8 倍の伸びを示している。2007 年 9 月から月別ページビューが 10 万件を超えるようになり、それ以降は安定して 10 万件台のアクセス数を維持している状況である。

表 1. OSS メッセージペディアの月別アクセス数

Date	Hits	PGView	HTMLView	OthersView
2008 年 2 月	136,238	134,630	28,318	23,592
2008 年 3 月	169,609	167,995	31,849	27,908
2008 年 4 月	159,234	157,374	33,802	29,186
2008 年 5 月	171,264	170,057	45,159	39,769
2008 年 6 月	150,177	149,276	33,036	28,608
2008 年 7 月	143,163	142,017	32,047	26,704
2008 年 8 月	134,851	133,971	29,634	26,175
2008 年 9 月	139,312	138,570	34,869	31,748
2008 年 10 月	152,792	151,315	30,352	26,278
2008 年 11 月	135,399	133,715	30,957	27,280
2008 年 12 月	144,647	143,335	32,429	28,095
2009 年 1 月	135,415	134,353	27,635	23,184
2009 年 2 月	155,940	155,054	30,850	26,670
<b>TOTAL</b>	<b>1,928,041</b>	<b>1,911,662</b>	<b>420,937</b>	<b>365,197</b>
<b>月平均</b>	<b>148,311</b>	<b>147,051</b>	<b>32,380</b>	<b>28,092</b>

説明:

- Hits: 全アクセス数  
 PGView(ページビュー): 画像/Javascript へのアクセスを除いた件数。(Google 等の機械検索を除外した件数)  
 HTMLView: PGView から RSS/Atom などのフィード、LXR(ソースコードビューワー)へのアクセスを除外した件数  
 OtherView: HTMLView からメッセージ調査参加企業のアクセスを除外した件数

### 3.2.2 メッセージ解説記事登録数

2008 年度は、本タスクフォース参加メンバを中心に新たに約 50 件の解説記事が登録され、現在、mPedia には約 900 件の解説記事が登録されている。

### 3.2.3 検索メッセージのヒット率

mPedia にてメッセージを検索した結果、有益な情報が得られたか否か、すなわち検索がヒットしたか否かは、最終的には利用者の判断によるため、システムの利用記録からは分析できない。

ここでは、Linux システム利用者から本タスクフォース参加企業のカスタマーサポートに寄せられた

カーネル関連メッセージの問合せ事例を、可能な範囲で収集し、それらを仮想的に mPedia 利用ユーザが検索投入したメッセージとみなして mPedia に検索をかけ、その結果からヒット率の評価とヒット率向上のための施策分析を行った。

### 3.2.3.1 ヒット率の評価

表 2 の定義に基づき、ヒット率を算出した。

評価期間：2008 年 8 月～2009 年 2 月までの毎月

表 2. ヒットの有無の分類

カテゴリ	検索結果の分類	利用者の判断(推定)
A	該当メッセージ有り+解説記事有り	役に立った(=ヒットした)( 1)
B	該当メッセージ有り+解説記事なし	役に立たない(=ヒットしない)( 2)
C	該当メッセージ無し	役に立たない(=ヒットしない)( 2)

1:2008 年度は解説記事の有効率評価は行わず、記事があれば一律に有効と判定した。

2:2007 年度評価における「データなし件数」を、2008 年度はさらに分類して評価した。

毎月の問合せ件数と、検索結果の分類、およびヒット率は表 3 の通りである。また、これらをグラフ化したものを図 1 に示す。

表 3. OSS メッセージペディアの月別ヒット率評価

実施月	問合せ件数	A	B	C	ヒット率(%) A ÷ 問合せ件数
2008 年 8 月	28 件	20 件	8 件	0 件	71.4%
2008 年 9 月	24 件	19 件	4 件	1 件	79.2%
2008 年 10 月	20 件	13 件	4 件	3 件	64.0%
2008 年 11 月	21 件	9 件	5 件	7 件	42.9%
2008 年 12 月	24 件	12 件	11 件	1 件	50.0%
2009 年 1 月	14 件	8 件	2 件	4 件	57.1%
2009 年 2 月	14 件	9 件	1 件	4 件	64.3%
<b>TOTAL</b>	<b>145 件</b>	<b>90 件</b>	<b>35 件</b>	<b>20 件</b>	<b>62.1%</b>

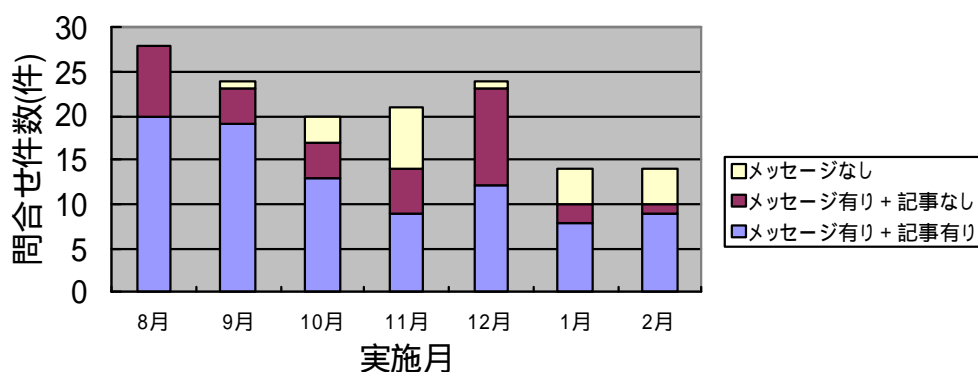


図 1. 問合せ件数と各分類の割合

評価期間全体でのヒット率は約 60%であり、2007 年度第 3 回評価時の結果と同程度のヒット率が確認された。

メッセージ自体はヒットしたが解説記事が存在しなかった割合が、問合せ件数全体の 24%を占めている。これは、2008 年度のメッセージ DBTF の活動が mPedia サーバの移管や機能拡張に焦点を当てた活動であり、解説記事の新規登録に対しては具体的な施策を打ち出せなかったことが大きく影響している。2009 年度の活動では、解説記事の登録数拡大についても対応を検討する予定である。将来ビジョンとしては、コミュニティを形成するための技術的な基盤を整備することで mPedia コミュニティを確立し、解説記事のコンテンツ登録がバザールモデル型で拡大していくことを期待している。

### 3.2.3.2 ヒットしたメッセージの特徴分析

今回の評価期間において、同一のメッセージが複数の利用者から問合せされるケースが確認された。このことから、問合せの多いメッセージが mPedia にヒットした件数全体に占める割合を調査した。

表 4. OSS メッセージベディアの月別ヒット率評価

問合せ回数	該当メッセージ数	メッセージ数の割合	問合せ件数	問合わせ数の割合
5 回	3	6.4%	15 件	16.7%
4 回	3	6.4%	12 件	13.3%
3 回	6	12.8%	18 件	20.0%
2 回	10	21.3%	20 件	22.2%
1 回	25	53.2%	25 件	27.8%
	計 47	100%	計 90 件	100%

表 4 から、ヒットした 90 件のメッセージの内訳は、実際には 47 メッセージであることが確認できる。図 2 は、この 47 個のメッセージを問合せ回数の多い順にプロットし、問合せ総数との比較をしたものである。図 2 から、問合せの多いメッセージの上位四分の 1 が、問合せ総数の約半分を占めていることを確認できる。

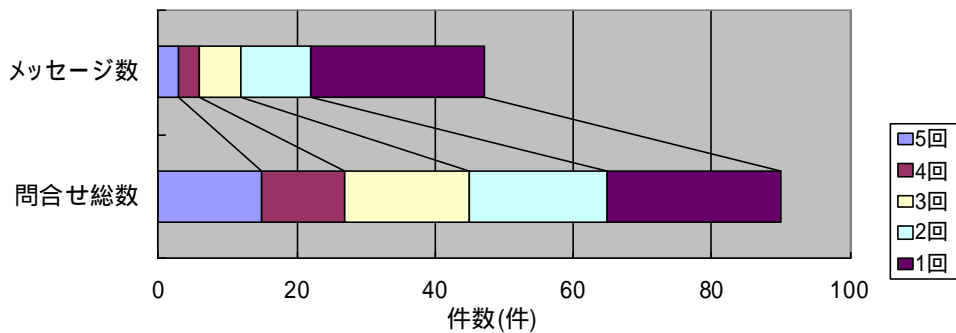


図 2. 問合せが多いメッセージが問合せ総数に占める割合

このことから、問合せの多いメッセージに対して優先的に解説記事の執筆・対処を行っていくことが、ヒット率の向上に貢献すると考えられる。

### 3.2.3.3 検索結果でメッセージなしと判定されたメッセージの原因分析

今回の評価期間において、mPedia 上で検索した結果が「メッセージなし」とされた件数が、20件確認された。この原因を調査したところ、以下の4点が確認された。

- ソースコードからのメッセージ抽出漏れ(8件)  
mPedia に登録されているメッセージは、ソースコードからメッセージ出力関数(printk 関数)をキーとして抽出されたものである。しかし、開発者が別の関数やマクロ定義としてメッセージ出力関数を定義して用いている場合にはメッセージ抽出対象として認識されないことから、メッセージの抽出漏れが発生する。
- OSS 製品のバージョンアップに基づく、mPedia への登録漏れメッセージの出現(7件)  
ユーザの Linux 環境は、mPedia が基としたバージョン 2.6.9-34 よりも新しい環境であることがあり、その場合、バージョンアップにより追加されたメッセージは mPedia では検索できない。
- メッセージの断片が mPedia に収録されている(4件)  
利用者が目にする1行のメッセージも、ソースコード上では、メッセージの部分々々を断片的に出力して、結果として1行のメッセージを形成している場合がある。この場合、mPedia に登録されるメッセージはメッセージの断片となり、検索したメッセージへの一致性が低くなり、メッセージなしと判定せざるを得ない場合がある。
- 同一のメッセージが複数定義されており、どれに一致するか判定ができない(1件)  
Linux カーネルは複数のアーキテクチャをサポートするが、アーキテクチャ別に複数存在するソースファイル内で同一のメッセージ出力が行われている場合、mPedia はそのすべてのメッセージを対象とする。そのため、検索結果として、複数の同一メッセージが一覧され、メッセージの特



定ができないと判断される場合がある。

これらの原因については、次年度以降の課題として対応を検討したい。

### 3.3 バザールモデル型を実現するための mPedia の機能改善

2008 年度の上期活動(4 月～9 月)は、現行の mPedia サーバの機能改善に焦点を当てた活動だったが、Linux カーネル本体のメッセージング機能を改良するパッチ(以下、kmsg)が正式に Linux カーネルコミュニティに提案されたため、下期活動では、kmsg との連携を基本として、より広い視野での改良項目の洗い出しを行った。

#### 2008 年度上期活動

コミュニティ形成の第一歩として、上期は、mPedia コミュニティを形成するために最低限必要となる追加機能の開発を目指し、現行 mPedia の機能改善に的を絞って活動を行った。表 5 は、現行 mPedia サーバ本体に対する改善項目の一覧である。

上期活動では、mPedia に関する技術情報、開発環境が未整備であり、タスクフォース参加メンバー間の情報共有、開発環境の整備に多くの時間を割くこととなった。加えて、kmsg パッチが Kernel 関連のメーリングリストで積極的に議論され、メインストリームへのマージの期待が高まったことから、kmsg との連携を技術的に検討した上で、mPedia の改善機能/優先度の見直しを行うこととした。

表 5. mPedia サーバに必要な改善機能 (2009/2/28 現在)

No.	機能	機能概要	優先度
1	マルチバージョン機能	特定バージョン、特定ディストリビュータに依存せず、複数のバージョンに対応するための機能。	優先度高
2	フィードバック機能	mPedia 利用者からコンテンツ作成者へのフィードバックを可能にする機能。	優先度中
3	統計機能	mPedia の利用状況を把握するための機能(全体のメッセージ数/登録メッセージ数/参照件数の多いメッセージの表示、アクセス数等)。	優先度低
4	Web 機能	mPedia ブラウザに関する種々の拡張機能。	優先度低
5	検索機能	使い勝手の改善機能。	優先度中
6	貢献度表示機能	現行貢献者ランキング表示機能の改良。	優先度中
7	メッセージ抽出/登録機能	カーネルメッセージの自動抽出/自動登録機能を強化するための mPedia メンテナ向け機能。(組み立て型メッセージの自動登録を可能にする。)	優先度低
8	メッセージ一覧抽出機能	登録メッセージの一覧を抽出/表示するための機能。	優先度低
9	コンテンツデータマージ機能	mPedia のミラーサイト構築時に、コンテンツをサイト間でアップロード/ダウンロードするための機能。	優先度高

## 2008 年度下期活動

下期活動では、kmsg を軸として、Linux カーネルコミュニティと連携し、グローバル規模でのコミュニティ形成を可能とするためのインフラ機能の整備を目指すことになった。表 6 は、kmsg との連携を前提とした開発項目の一覧である。

表 6. kmsg との連携に必要な機能(開発項目)と対応状況 (2009/2/28 現在)

No.	開発項目	機能概要	対応状況
1	DB-テキスト変換ツール	メッセージコンテンツとメッセージ ID/コンポーネント一覧を書式変換し、mPediaDB に対してアップロード/ダウンロードを行うためのツール。	TF メンバ間でデザインを検討中。
2	メッセージ ID/コンポーネント名一覧抽出ツール	カーネルソースからメッセージ ID とコンポーネント名を抽出し、カーネルバージョンごとにテキスト形式の移行データを作成するためのツール。	TF メンバ間でデザインを検討中。
3	mPedia-カーネルソース間の相互交換ツール	メッセージコンテンツを mPedia とカーネル間で相互に交換するためのツール。	TF メンバ間でデザインを検討中。
4	mPedia データベースの kmsg 対応	kmsg との連携にともなう mPedia 内部の機能改造。	TF メンバ間でデザインを検討中。

2008 年度は、実際の開発作業に着手するまでには至らなかったが、コミュニティ形成に必要となるインフラ機能のオーバビューを完了し、具体的なデザイン検討を開始できる状況となっている。

## kmsgパッチに関して

kmsg パッチは、カーネルが出力するメッセージに ID を振り、メッセージの解説文書との対応付けを可能にする。2008 年 7 月に Linux カーネル開発者のメーリングリスト LKML に投稿されたものであり、パッチの内容は、下記のスレッドにて参照できる。

URL: <http://marc.info/?l=linux-kernel&m=121743797320537&w=2>

- [patch 1/3] kmsg: Kernel message catalog macros.
- [patch 2/3] kmsg: Kernel message catalog script.
- [patch 3/3] kmsg: convert xpram messages to kmsg api.

この機能が適用された場合、mPedia のコンテンツをカーネルに取り込むことが可能になり、逆にカーネルから mPedia にコンテンツを落とし込むことも可能になる。しかし、2008 年 10 月に該パッチのメインストリームへの適用依頼に対して、Linux 創設者である Linus Torvalds 氏が異議を唱えている。異議の内容は、メッセージが固定され、開発者に ID のことを考える煩わしさを与えることになり、メッセージの解説文書をカーネル内に取り込むことなどは認められない、というものである。該パッチがメインストリームにマージされるまでには、まだかなりの時間を必要としそうである。

Linus 氏のコメントは、下記のスレッドにて確認できる。

URL: <http://marc.info/?l=linux-kernel&m=122477621904786&w=2>

- Re: [GIT PULL/RESEND] kernel message catalog patches

本タスクフォースでは、今後も kmsg の動向を注視し、必要であれば、カーネル開発コミュニティへの働きかけを試みる予定である。

### 3.4 永続的な発展に向けた運用/維持管理方法の検討

mPedia コミュニティの形成を強く意識し、mPedia サーバの管理を現在の民間企業から公共の場である IPA OSS オープン・ラボに移管することを検討した。結果的には、mPedia の kmsg 対応の優先度が高まり、mPedia サーバの移管については kmsg 対応を実施した後に再度検討することとし、2008 年度内のサーバ移管は実現していない。

mPedia サーバを公共施設で管理するにあたっては、表 7 に示すようにいくつかの懸念事項が存在するが、これまでの検討状況から判断すると、IPA へのサーバ移管は可能であると考えている。

表 7. mPedia サーバ移管に関するおける懸念事項

No.	項目	内容	対応方針
1	不特定多数からの更新	IPA 管轄のサーバで、GFDL ライセンスの著作物や IPA がライセンスを所有する著作物を不特定多数の利用者から更新する場合のセキュリティ管理方法の検討。極端に自由度が下がると、人気サイトにはなれない。	基本的に移管先のセキュリティポリシーに従う。
2	コンテンツの拡充	mPedia 関連の維持/発展を支えるメンバの確保。まずは、コンテンツ投稿者間でコミュニケーションするためのメーリングリストの作成と運用リーダーの確保。	mPedia コミュニティの課題として対応する。
3	サーバの耐障害性	瞬電やハードウェア障害、ソフトウェア障害に対する耐久性の確保。(電源二重化、サーバ二重化など)	mPedia 自体のミッションクリティカル性は高くないため、移管先のインフラに従う。
4	問合せに対する回答の仕組み	コンテンツライター登録、コンテンツ投稿などをどのような方法で承認し、回答するか取り決め。	mPedia コミュニティの課題として対応する。
5	サーバ運用/監視	悪意の書き込み/稼働状況等の監視方法の確立。	基本的に移管先のセキュリティポリシーに従う。
6	mPedia ドメイン移管	「ossmPedia.org」の移管。	事務的な手続きのみ。
7	商標権の移管	「OSS メッセージペディア」の商標権の移管。	事務的な手続きのみ。

### 3.5 mPedia が目指す将来像と開発ロードマップの検討

上期活動におけるコミュニティ形成モデル

コミュニティ形成を机上の空論に終わらせないために、長期的な視野から mPedia の将来像を定義し、必要な開発機能に関しては、可能な範囲でその開発ロードマップを描くことを目指した。

図 3 は、現行 mPedia に関するコミュニティの形成状況を示したものである。mPedia 本体のソースコードは sourceforge 上で公開されてはいるものの、その構造は複雑であり、残念ながら、誰もが mPedia の機能追加に参加できる状況にはなっていない。また、メッセージコンテンツは mPedia サーバ内のみ存在するため、それらのコンテンツを簡単に別な方法で利用することが出来ない。現在のコミュニティ形成モデルは、mPedia サーバがコミュニティの中核をなすことから、結果的に、mPedia コミュニティの広がりはおく限られた範囲に限定されてしまう可能性が高い。

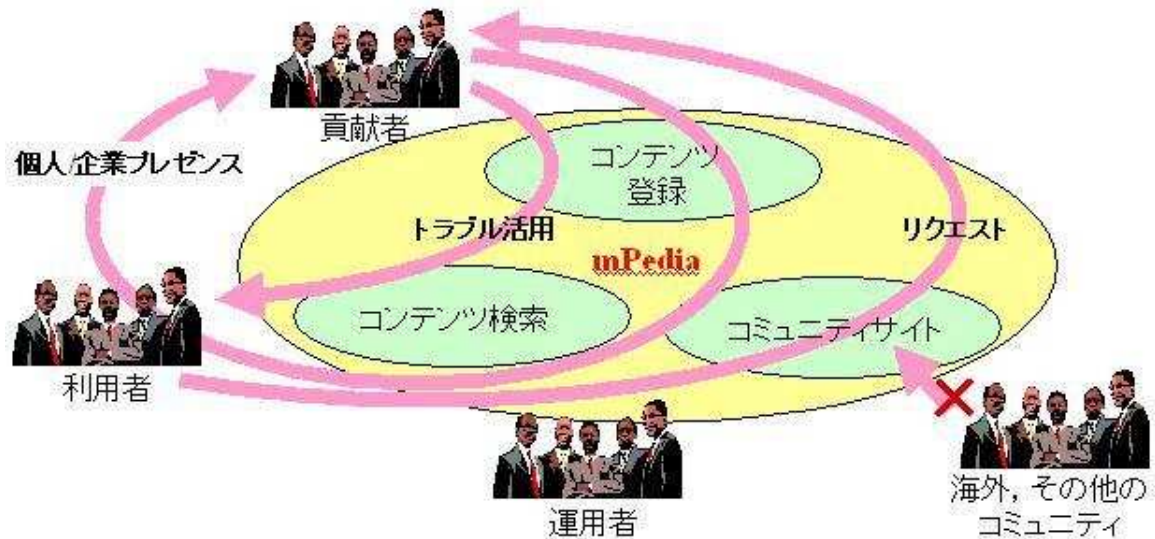


図 3. 現在の mPedia コミュニティの構成

## 下期活動におけるコミュニティ形成モデル

下期の活動では、mPedia サーバを中心に置くのではなく、メッセージコンテンツそのものをコミュニティの中核に置くことで、コンテンツの利用範囲を広げ、コミュニティ形成の輪を拡大することを目指した。

図 4 は mPedia の将来像を描いたものである。

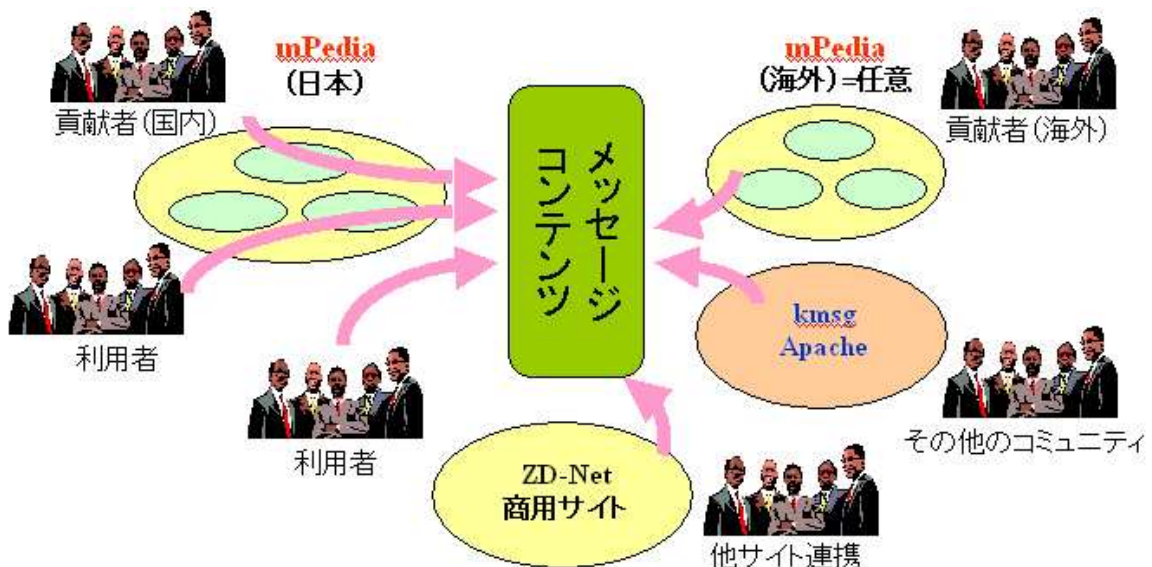


図 4. mPedia が目指すコミュニティ構成 (将来像)

将来像としての mPedia コミュニティ(図 4)を実現するための具体的なアプローチとして、現状のメッセージコンテンツを流用・利用しやすいテキストデータに移行し、当該データを用途や目的に合わせて利用するモデルを検討した。表 6 に示した kmsg 連携は、これを実現する際の最も有力な技術と位置付

けている。mPedia のメッセージコンテンツを kmsg に沿って実装し、kmsg にコンテンツを提供することで、kmsg と mPedia 相互補完が期待できる。mPedia 全体を俯瞰した開発ロードマップについてはまだ十分な議論に至っておらず今回の報告に含めることはできなかったが、kmsg 連携ツールが開発されれば、インフラ機能の整備としては十分であり、それ以降はバザールモデル型の開発・展開にシフトしていけると考えている。

## 4 課題

mPedia コミュニティの形成においては、できるだけ早くインフラ機能を整備することが成功への鍵となる。インフラ開発への着手にあたっては、以下の課題をクリアする必要がある。

### (1) インフラ整備のための開発費用/開発要員の確保

mPedia の将来像は描けても、それを実施するための原資を確保することは容易ではない。バザールモデル型の開発を可能とするインフラ機能の開発にあたっては、公募による開発者の募集というような方法も選択肢の一つとなり得る。(IPA への提案を検討したい。)

### (2) Linux カーネル開発コミュニティとの連携

kmsg は、2009 年 3 月 9 日時点でまだメインストリームにマージされていない。また、kmsg パッチのカーネル内の適用範囲も限定的なものである。カーネルコミュニティとの連携強化を、今後の mPedia コミュニティ形成の促進剤としたい。

直近の課題としては、本タスクフォースの活動内容が極めて地味な活動であることから、参加企業の賛同を得られにくい点をあげられる。活動内容として、成果のアピールという観点が必要である。

## 5 2009 年度に向けて

2009 年度は、mPedia コミュニティの基礎を築くことをターゲットとしたい。具体的な作業項目としては、下記のような項目を考えている。

- (1) mPedia の利用および有効性調査の継続
- (2) mPedia の登録コンテンツの拡充
- (3) バザールモデル型開発インフラの整備

## 6 まとめ

2008 年度は、開発作業を伴わなかったこともあり、際立った活動成果をあげることはできなかったが、メッセージコンテンツを中核としたコミュニティ形成を図ることで、よりオープンな環境で mPedia を展開

することが可能になる。カーネルコミュニティとの連携が必須となり、日本発の新たなコミュニティスタイルの確立に向けて、本タスクフォースのチャレンジを一步ずつ現実に近づけていきたい。

当面のアクティビティは、バザールモデルの実現に向けた土台作りである。OSS に関わる人たちの間で mPedia が一つのコモディティツールに発展し、オープンソースソフトウェア普及の一助として、世界への貢献につながる活動を目指したい。



## メッセージ DB タスクフォース メンバー一覧

### <メンバ> (五十音順)

安齋 眞	ユニアデックス株式会社
石崎 晃朗	日本電信電話株式会社
伊藤 和夫	日本電信電話株式会社
岩田 雅彦	日本電信電話株式会社
内山 忠夫	ユニアデックス株式会社
梶原 直人	NTTデータ先端技術株式会社
工内 隆	The Linux Foundation
黒坂 肇	サイオステクノロジー株式会社
小池 匡	富士通株式会社
坂上 弘	株式会社日立製作所
佐藤 勝弥	ユニアデックス株式会社
志田 隆弘	NTTデータ先端技術株式会社
鈴木 祥一	サイオステクノロジー株式会社
鈴木 友峰	株式会社日立製作所
高田 哲生	日本電信電話株式会社
高橋 秀樹	ユニアデックス株式会社 (主査)
竹添 直樹	NTTデータ先端技術株式会社
立川 江介	日本電気株式会社
中田 まゆみ	エクスネット株式会社
橋本 尚	株式会社日立製作所
宮本 利明	シーネットネットワークスジャパン株式会社
望月 友明	富士通株式会社
山崎 真義	サイオステクノロジー株式会社

### <事務局>

独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)

所属は本資料公開時点のもの

## 改訂履歴

版	作成日	改訂内容
0.1	20090309	活動報告初版 ドラフト
0.2	20090318	活動報告初版 検索ヒット率の追記
1.0	20090323	活動報告初版 章立て、上期活動内容等の変更
1.01	20090325	活動報告初版

## 商標について

- ・Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・OSSメッセージペディアは、ユニアデックス株式会社の商標です。
- ・その他、記載されている会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。